

委員会視察成果報告書

令和7年10月14日

犬山市議会議員 大沢 秀教様

議員名 ピアンキ恵子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年10月8日（水）～令和7年10月10日（金）（2泊3日）
(2) 視 察 先	神奈川県三浦市役所
(3) 視察の種類	常任・特別委員会（建設委員会） ガストロノミーツーリズム
(4) 視察成果 （視察地ごとに記入）	三浦市は三浦半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれている漁業がさかなな街で、海の幸には恵まれています。総人口が4万人弱ですが、やはり人口減少、若い人たちが、仕事で三浦市内からでていってしまっています。観光庁から地域一体型ガストロノミーツーリズム推進事業の採択を受け、特別な課を市役所で作り、担当室長が中心となり、宣伝もHPなどではなく、地元の農水産物を使った特別な食体験をモニター形式で富裕層の方々が直接体験するという形をとっていることの努力が、数年かけて多くの成果をあげています。 実証実験として、特別な食体験をするゲリラレストランを実施したりなど地元の生産者や事業者との連携にも努力されています。 特に、新しいホテルの建設により、新たな雇用促進につながる取り組みに繋がっています。
(5) 犬山市に 対する提言	三浦市は食材が豊富で犬山市は三浦市のような農水産物は残念ながら豊富ではありません。三浦市が行っているガストロノミーツーリズムをそのまま犬山で食体験をしながら体験するというのは難しいと思います。 今回の三浦市がスパシオホテルなどの富裕層相手の建設を始めており、三浦市が抱えている、人口流出の歯止めになるし、また地元に戻り仕事ができるチャンスにもなります。今回の目的はガストロノミーツーリズムでした。しかしその中で三浦市のように大きなホテル建設が出来なくても、新しい企業が来ることにより、移住につながったり、税収入の増加につながると思います。 各宿泊先が、1プラスディッシュとして地元の食材を使い、食体験として無料で提供してもらうのも一つのアイデアと思います。



委員会視察成果報告書

令和7年10月14日

犬山市議会議長 大沢 秀教様

議員名 ビアンキ恵子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年10月8日（水）～令和7年10月10日（金）（2泊3日）
(2) 視 察 先	埼玉県加須市役所
(3) 視察の種類	常任・特別委員会（建設委員会） 田んぼオーナー制度
(4) 視察成果 （視察地ごとに記入）	埼玉県加須市は、面積の約半分が農地で、利根川が肥沃な土壌を作り、豊かな水とで、多彩な農作物が栽培されています。有名なコシヒカリ、地酒など、土地柄恵まれています。 その中で行われているのが、市民が米作りの体験をし、農業への理解を深め、都市交流やの農村の活性化を図っています。具体的に北川辺ライスパークで、田植え・稲刈りをし、自分で収穫したお米は持ち帰ることができます。使用する品種もブランド米であるコシヒカリを使用。 参加されている方たちは、多くはファミリー層です。 「ジャンボこいのぼりの掲揚」という加須市の一大イベントに、田植え体験後のイベントに回れるようになど、固定化や継続参加するようになど工夫されている。この田んぼオーナー制度はあくまでも、体験することではあるが、農業を体験することで、担い手不足が深刻化する中で、米作りを支える一つの方法としても役に立っている。
(5) 犬山市に 対する提言	田んぼオーナー制度はあくまでも農業を体験することに比重が大きく、また、ライスパークが体験圃場であり、犬山が抱えている、耕作放棄地の対策としては、難しい取り組みだと思います。 但し、犬山でできることとして、学校単位で、田んぼを管理し（もちろん農家の方の指導が必要ですが）田植えから脱穀・粃摺りまで、その後自分たちの作ったお米を持ち帰り、食することで、一部の耕作放棄地の新たな活用が考えられるかもしれません。 また、加須市のように「ジャンボこいのぼりの掲揚」の日に合わせて、農業体験の日とかやるように、何か犬山で「田植え体験の日」を作るのも一考かもしれません。

委員会視察成果報告書

令和7年10月14日

犬山市議会議長 大沢 秀教様

議員名 ビアンキ恵子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年10月8日（水）～令和7年10月10日（金）（2泊3日）
(2) 視 察 先	栃木県日光市役所
(3) 視察の種類	常任・特別委員会（建設委員会） 日光グリーンスローモビリティ
(4) 視察成果 （視察地ごとに記入）	日光市は世界遺産含め、たくさんの観光資源が多く存在しているが、一部の地域は路線バスが入るには狭く、せっかくの観光資源も交通手段確保が課題でした。 内閣府「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を利用して車両を購入。100パーセント交付金で賄われました。 今回市役所に行く前に、実際の車両に乗車しましたが、見た目も真っ赤で10個の車輪で動き、窓がなく開放的、車内では、観光ガイドスが流れています。一目で可愛い、乗ってみたいと思う車両でした。 大きな課題が実証実験後、継続するには今後4条としての登録が必要でそうすると、簡単に運休が出来ないとか、路線廃止が出来ないなどの規制が強くなるそうです。 しかし、この車両の見た目をひくことや、細い道まで入っていくことが出来、料金も200円ということもあり、是非継続してほしいと、1ツーストなら思うと思います。
(5) 犬山市に 対する提言	犬山でグリーンスローモビリティをするのであれば、見た目から乗りたいと思う車両でなければいけないですが、どこで活用できるかです。 以前人力車が走っていた時もありましたが、異常気象（猛暑）の中では無理です。ゴルフ場のカート（特別な装飾を施す）などを使い、犬山城から商店街を広くまわり、現在の城下町のための観光で終わらないようにすることと、宿泊先の宣伝もすることが出来るのではないかと。 日光市も犬山市と同様、日帰り東京宿泊が多いということです。 それには、犬山観光しながら、宿泊先ツアーも、小回りにすればできると考えます。